

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 「埼臨技 新入会員向け研修会」開催される

去る、7月7日大宮ソニック602号室で「埼臨技 新入会員向け研修会」が開催されました。本研修会は埼玉県では今回で2回目となり、67名（会員・非会員含める）と前年よりも多くの方に参加していただきました。来年度以降も、新入会員・入会予定の方々に有益な情報を提供する場として開催していきたいと思っております。今回受講された2名の新人技師の感想文を掲載いたします。

### 『埼臨技 新入会員向け研修会』に参加して



一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター  
検査部 一般検査科 大芦 晃太

7月7日(木)に大宮ソニックシティ602号室で「埼臨技 新入会員向けの研修会」に参加させていただきました。今回の研修内容は、「埼臨技、日臨技についての説明」と「直ちに役立つ検体検査」の二部構成でした。前半は岡田副会長からDVDの上映を交えながら、日臨技のシステムや保障制度についてご講演をいただきました。津田会長からは、埼臨技と日臨技の違いについて説明がありました。また、研修会、勉強会、学会の説明や付随情報についてご講演いただきました。後半は山口部長からは、「検体の取り扱い方」と「検査結果の解釈の仕方とその結果の臨床的意義」をご講演いただきました。検査項目のデータが基準値から離れているということだけで登録するのではなく、生化学、血液、一般のすべての検査データをポイントごとに確認し、その結果で登録をしていいものかを見極めることが大切ということをお話しされておりました。学校の授業では学ぶことはできなかったのが、今後の仕事に生かしていければと思いました。

研修会を通じて、検体を正しく大切に扱うことや検査結果に責任を持つことを学ぶことができました。また埼臨技の役割やシステムを知ることができ、学会活動に参加していきたいと思えました。まだまだ知識や技術共に未熟ですので、勉強会などを活用し先輩方に色々なアドバイスをいただけて頑張っていきたいと思っております。

津田会長を始め埼臨技会員の皆様これからよろしくお願ひします。



深谷赤十字病院 検査部  
中島 舞

私は今年、新たに埼玉県臨床検査技師会の会員となり、先日の「埼臨技 新入会員向け研修会」に参加しました。技師会の特色についての講演では、改めて技師会でされている活動についてより詳しく知ることができました。今後行われる行事等にも積極的に参加し、臨床検査技師としての知識や技術をさらに高めていきたいと思ひます。





迷惑しているかも知れないが、例えば成人（体重60kg）から10mLの採血をして検査する場合を低出生体重児に当てはめると、体重1kgから414mL（献血の約2単位に相当）の採血になってしまうので、どうしても微量にせざるを得ないとのことであった。講演3は、酒井先生によるワクチンの最近の進歩についての講演であった。乳幼児期に多くのワクチン接種が実施されるが、2013年からインフルエンザ桿菌（Hib）と肺炎球菌ワクチンが定期接種化され、さらに本年10月からB型肝炎ワクチンが追加される。先行追加されたHibと肺炎球菌ワクチンにより、5歳未満の小児におけるこれら細菌による髄膜炎が大幅に減少している。また、B型肝炎については、感染・発症したのち治癒したと思われた症例でも実はウイルスは肝細胞内に残存し、抗がん剤や免疫抑制剤などの治療に伴い再活性化すると死亡率が高いことが問題視されていた。B型肝炎ワクチンの定期接種が行われることで、このような症例の減少が期待される。特別講演は、松崎先生により、宇宙飛行士に学ぶ職場ストレス対処法についての講演があった。宇宙船内では、地球上にいるのと比べ強いストレスがかかってくる。例えば、何日間も同じ小さな空間で同じ何人かの乗組員と生活しなければならないし、90分ごとに昼と夜が訪れる中で、布団に横になって寝ることもできない。乗組員とのいさかきが起きて険悪になってもそこから逃げ出すこともできないのである。したがって、宇宙飛行士には機器の操縦技術もさることながら、メンタル面においても優秀であることが求められる。

2日目の講演4は、山田先生による小児アレルギーの実際と検査である。広義のアレルギーはCoombs&Gellの分類ではI型からIV型までであるが、今回は狭義のアレルギーすなわちI型とI型に引き続き起こる遅延型、遅延反応が中心であり、食物アレルギー、気管支喘息、花粉症（アレルギー性鼻炎・結膜炎）が該当する。このうち、気管支喘息は「気道の慢性炎症を主体とし、臨床症状として変動性を持った気道狭窄や咳で特徴づけられる疾患」である。「気道炎症には好酸球、好中球、リンパ球、マスト細胞などの炎症細胞に加えて気道上皮細胞、繊維芽細胞、気道平滑筋細胞などの気道構成細胞も関与している。治療としては、吸入ステロイドが基本である。また、抗IgE抗体や抗IL-5抗体が承認され、抗IL-13抗体も間もなく承認されれば、重症患者にも福音となるとの事であった。講演5は、村上先生による保険診療と検体検査であった。今回の保険点数の改定について詳細な説明があった。しかし、改正されたことにより矛盾点が生じた項目もあった。例えば、ある項目の半定量法と定量法があり、定量法のみ保険点数が引き下げられたことにより、定量法より半定量法の点数が高くなった例が散見された。今後、是正を求めていくとの事であった。その他、今ホットな話題としてISO15189を受審し合格したとの事で、その苦労話なども付け加えてご講演いただいた。最後の講演6は櫻林先生によるサルコペニア、フレイルとは何？であった。簡単に用語を説明すると、サルコペニアは造語でありSarcoは肉すなわち筋肉を意味し、Peniaは減少を意味する。すなわち、筋肉が減っていく状態である。フレイルは、人が高齢・病気でか弱くなる、花車になることである。近年、日本の平均寿命は延びており世界の国の中でも女性は1位、男性も4位となっている。しかし、いくら平均寿命が長くても、健康寿命が短ければあまり喜ばない。健康寿命とは、健康上の問題がないまたは介護を必要としない状態で日常生活を送れる期間である。この健康寿命を延ばすためには、サルコペニア・フレイルに陥らない事が望まれる。それには、日常の生活を見直す必要があり、1.禁煙。2.適度の飲酒（日本酒なら1合、ビールなら1本）。3.バランスの良い食事（脂肪、糖質、塩分を控え、ビタミン、ミネラルの多い食事）。4.運動（1日5000歩の歩行で早歩きも効果的）。5.ストレスフリーの生活。などが挙げられる。との事であった。これらを実践し是非健康寿命を延ばしたいものである。

今回は以上の7演題であった。本セミナーでは毎年多彩な内容の講演が用意されているので、興味のある方はぜひ参加していただきたい。

（文責：庄司和春）

## テーマ 寄生虫について！「動画で見る寄生虫類および検査法と鏡検のポイント」

主催 微生物・公衆衛生・一般 検査研究班合同

実施日時：平成28年 6 月24日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 906号室 点数：専門教科－20点

講 師：山本 徳栄（埼玉県衛生研究所）

参加人数：会員98名 賛助会員11名 非会員（申請中）1名 学生2名



出席した研究班班員：

微生物検査研究班：渡辺典之 金田光稔 永野栄子 小西光政 酒井利育 森圭介  
毛利光希 小棚雅寛 砂押克彦

公衆衛生検査研究班：阿保一茂 立塚梓

一般検査研究班：小関紀之 深田茂則 室谷明子 山浦久 川音勝江 藤村和夫  
波木井裕之 柿沼智史

研修内容・感想など

埼玉県衛生研究所の山本氏を講師に迎え、講演していただいた。氏は、寄生虫検査・研究の第一人者であり、長年の知識・経験を踏まえた本研修は貴重な時間であった。

従来、寄生虫検査では、顕微鏡標本の説明で、スライド写真を一枚一枚解説することに終始していた。今回、これらのスライド解説に加え、動く寄生虫を見せてくださった。現場では、なかなか遭遇することの少ない寄生虫の実際に生きている姿を動画という形で提供していただき、画期的な研修になった。顕微鏡の取り扱い方や各種検出法、塗抹法などの基本技術も丁寧に解説していただき、二級臨床検査士試験のポイントも併せて講義していただいた。

寄生虫は、赤痢アメーバ、大腸アメーバから、サイクロスポラ、イソスポラ、マラリアや条虫類まで幅広く紹介していただき、限られた研修時間では足りなくらいであった。寄生虫検査も現在は遺伝子検査の手法が導入されてきているが、やはり基本は観察・鏡検であり、安易に高額な遺伝子検査を実施することなく、簡易で安価な鏡検で同定可能になることも多いため、鏡検を基本に据え、日々習得の努力が大事であることを実感した研修であった。参加者も非常に多く、会場に入りきれないほどの盛況であった。

(文責：砂押克彦)

## テーマ 免疫検査の基礎を学びましょう

主催 血清検査研究班

実施日時：平成28年 6月30日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：専門教科－20点

講演 1：免疫検査におけるメーカー間差の現状と問題点

講師：譽田 大仁（三洋化成工業株式会社）

講演 2：免疫反応における異常反応

講師：中嶋 久衣（和光純薬工業株式会社）

参加人数：会員53名 賛助会員5名 非会員1名

出席した研究班班員：庄司和春 大島まりこ 鯨井智子 多川裕介 岩崎篤史 天野直樹  
中別府菜穂子 鈴木淳子

研修内容・感想など

今回の研修会では「免疫検査におけるメーカー間差の現状と問題点」という演題で譽田氏に、また「免疫反応における異常反応」という演題で中嶋氏に講演していただいた。

免疫検査は生化学検査に比べて標準化されていない項目があり、日常検査においても各試薬メーカーの試薬特徴を理解しておく必要がある。CEAでは、CEAファミリーを認識する試薬としない試薬があり、スフィアライト機器は認識しない機器であるとのことやCA-19-9の反応性差についても詳しく説明していただいた。標準化に向けてのこれからの国内の動きでは日本臨床検査医学会の標準化委員会にて甲状腺項目の標準化に向けた部会が本年に立ち上がったこと、内分泌学会ではアルドステロンの標準化に向けての検討が行われているなど最新の話題についても情報提供していただいた。

講演2では項目別にみられる異常反応を実例とともに説明していただいた。異常反応を引き起こす要因として①試薬要因(測定原理、ロット間差) ②分析機器の要因(動作異常、部品劣化) ③検体要因(異好抗体、マイクロフィブリン、類似物質による交差反応)があり、これらの原因を特定する方法として吸収試験やPEG添加試験、WBなどの方法がある。インスリン測定ではアナログ製剤の影響で様々な測定値がでてしまうこと、CEAではCEAファミリーに対する反応性が試薬によって違うこと、CA19-9ではCA19-9の持つ抗原の多様性が測定間の乖離要因となっていること、腫瘍マーカーでは唾液による影響があることなど詳しく理解することができた。検査室では全ての免疫測定法に異常反応リスクがあることを認識し、異常反応がでた時こ

その力量が問われるため、日々勉強会等で最新の知識を身につけていくことが大切であると感じた。  
大変有意義な研修会であり、今後活かしていきたいと思う。

(文責：鈴木淳子)

## テーマ 輸血検査実技研修会

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成28年 7 月 3 日 9 時00分～17時00分

会 場：埼玉県済生会栗橋病院 5 階講堂 点数：専門教科ー20点

午前コース：初級者のための実技研修会 血液型・不規則抗体検査

午後コース：中級者のための実技研修会 血液型・抗体解離試験

講 師：輸血検査研究班員

参加人数：会員43名

出席した研究班班員：山田攻 渡邊一儀 佐藤祥子 神戸孝裕 長谷川卓也 野呂光恵  
久保居由紀子 小林真弓

### 研修内容・感想など

今年度の実技研修会は午前コースと午後コースにわけて行った。午前コースは初級者が対象で、血液型検査と不規則抗体検査を内容とした。血液型検査では基本的な手技や、反応態度の捕らえ方を、重点的に確認しながら実施した。不規則抗体検査については手技に加えて正しい消去法から不規則抗体を導き出せるようになることを目的とした内容だった。輸血検査歴一年未満の参加者が多く見られたが、理解し習得した様子であった。午後コースでは中級者のための、血液型検査と抗体解離試験を内容とした。血液型検査では手技の確認はもちろんのこと、異常反応を正しく捕らえて、その対応についても課題とした。抗体解離試験については、DT解離から酸解離に移行している施設も少なくないため、多くの受講者が高い関心を持っていた。グループ内でのディスカッションも行われ積極的に意見が出て、有意義な研修会であったと考えられる。輸血検査においても自動化が進んでいるが、用手法検査の手技獲得は必須である。自施設において安全な輸血療法につながるような研修会であった。



今年度の実技研修会は午前コースと午後コースにわけて行った。午前コースは初級者が対象で、血液型検査と不規則抗体検査を内容とした。血液型検査では基本的な手技や、反応態度の捕らえ方を、重点的に確認しながら実施した。不規則抗体検査については手技に加えて正しい消去法から不規則抗体を導き出せるようになることを目的とした内容だった。輸血検査歴一年未満の参加者が多く見られたが、理解し習得した様子であった。午後コースでは中級者のための、血液型検査と抗体解離試験を内容とした。血液型検査では手技の確認はもちろんのこと、異常反応を正しく捕らえて、その対応についても課題とした。抗体解離試験については、DT解離から酸解離に移行している施設も少なくないため、多くの受講者が高い関心を持っていた。グループ内でのディスカッションも行われ積極的に意見が出て、有意義な研修会であったと考えられる。輸血検査においても自動化が進んでいるが、用手法検査の手技獲得は必須である。自施設において安全な輸血療法につながるような研修会であった。

(文責：渡邊一儀)

## 埼臨技ひろば

### がん患者さんと共に歩くメンバー募集！ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016さいたま

昨年、第44回学会の宣伝を兼ねてリレー・フォー・ライフ・さいたま2015 (RFL) という患者さんを支援するボランティアイベントに有志チームで参加しましたが、なんと今年は埼玉県臨床検査技師会チーム「TEAM SAMT 44」として参加することになりました。

メインイベントである、チームで一丸となってタスキをつなぎ、がん患者さんと苦しみを分かち合う24時間ウォークやルミネリエセレモニー、啓発イベントのメンバーを募集します。

日時は、9月10日(土)～11日(日)、場所は浦和公園グランドです。参加に資格はありません。参加費1,000円から経費を除いた分が寄付に充てられ、患者支援とがん研究支援に回されます。

1～2時間の参加でもOKですし、徹夜で歩くのも歓迎します。大空と緑の中で、日頃の運動不足を解消するために、ご家族や仲間と一緒にのんびり歩きますか？

問い合わせ先

埼玉県立がんセンター 検査技術部 岩田敏弘  
048-722-1111 (5225)

平成28年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第5回 理事会議事録

日時：平成28年7月14日(木) 19時00分より  
場所：埼臨技事務所 さいたま市浦和区領家7-14-7  
議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：(理事)津田 岡田 矢作 小山 奈良  
長岡 猪浦 石井 松岡 小島  
濱本 藤井 長澤 神嶋 伊藤  
濱田 山口 武関 鳥山 阿部  
(監事)遠藤  
欠席：(理事)神山 島村  
(監事)細谷

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

#### Ⅰ. 行動報告(平成28年6月9日～平成28年7月13日)

6月9日(木)平成28年度公益社団法人第4回理事会：

津田、神山、島村、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、石井、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、伊藤、神嶋、濱田、山口、鳥山、武関、阿部、遠藤、細谷

6月17日(金)第45回埼玉県医学検査学会第10回実行委員会：猪浦、長岡、長澤

6月18日(土)日臨技定時総会：津田、神山、岡田

6月18日(土)関甲信支部幹事会：神山、岡田、津田

6月18日(土)一都八県会長会議：津田、神山、岡田

6月28日(土)第16回わらび健康まつり第1回実行委員会：藤井

7月1日(金)第11回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会：濱本、阿部

7月7日(木)埼臨技 新入会員向け研修会：津田、神山、島村、岡田、矢作、濱本、藤井、長澤、伊藤、神嶋、濱田、山口、鳥山、武関

#### Ⅱ. 報告事項

##### 1 事務局

- 1) 7月6日、平成28年度一般財団法人日本公衆衛生協会会長表彰推薦者を県へ回答した。
- 2) 全国糖尿病週間行事の後援承諾の回答をした。
- 3) 平成27年度第52回日臨技関甲信支部医学検査学会学術奨励賞を、立澤美咲氏(㈱アムル上尾中央臨床検査研究所)が受賞した。
- 4) 日臨技検体採取講習会の実務委員派遣調整担当者が、津田会長より濱本理事へ変更となった。

##### 2 総務部

- 1) 「埼臨技だより」第446号、7月15日発行予定
- 2) 埼臨技会員名簿、7月15日発行予定

##### 3 事業部

- 1) 6月23日、日臨技に検査と健康展暫定予算書・企画書を提出した。
- 2) 6月28日、第16回わらび健康まつり第1回実行委員会に出席した。
- 3) 7月1日、第11回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会に出席した。
- 4) 埼臨技・技師養成校の意見交換会の案内状を県内の学校へ送付した。
- 5) 7月7日、新入会員向け研修会を開催した。参加者67名(会員50名、入会申請者8名、賛助会員1名、非会員8名)。

##### 4 学術部

- 1) 埼臨技会誌Vol.63 No1 2016、7月15日発行予定
- 2) 第53回関甲信・首都圏支部合同学会の演題締切が7月31日まで延長されたと連絡があった。

##### 5 精度保証部

- 1) 特になし。

##### 6 会計部

- 1) 平成28年度正会員費58名分290,000円、入会金57名分57,000円、合計347,000円の入金があった。
- 2) 生涯教育推進研修会助成金50,000円×2研修会、44,500円×2研修会、41,500円×1研修会、合計230,500円の入金があった。
- 3) 平成28年度日臨技定時総会議決権行使書回収手数料70円×1,743件、合計122,010円の入金があった。
- 4) 埼臨技だより444号印刷代76,108円、同445号印刷代110,789円、封筒印刷代27,648円、合計214,545円を石井印刷へ振り込んだ。

##### 7 精度管理委員会

- 1) 第1回平成28年度埼玉県医師会精度管理調査会議開催予定(7月25日)

##### 8 一都八県会長会議

- 1) 6月18日、一都八県会長会議が開催され、津田会長が議長に就任した。

##### 9 日臨技関甲信支部

- 1) 6月18日、第1回関甲信支部幹事会が開催され、神山副会長が関甲信支部学術部長に再任した。

##### 10 日臨技

- 1) 6月18日、平成28年度日臨技定時総会にて、岡田副会長が日臨技理事に再任した。

##### 11 第45回埼玉県医学検査学会

- 1) 6月17日、第10回実行委員会を開催した。

##### 12 第54回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会準備委員会

- 1) 特になし。

#### Ⅲ. 承認事項

##### 1 事務局

- 1) 会員動向(平成28年度分)  
平成28年7月1日現在  
会員数 2,706名  
(新入会員176名[平成27年度会員数2,587名])  
賛助会員 70社[平成27年度 79社]

##### 2 総務部

- 1) 特になし。

##### 3 事業部

- 1) 特になし。

##### 4 学術部



- 1) 特になし。
- 5 精度保証部
  - 1) 特になし。
- 6 会計部
  - 1) 特になし。
- 7 精度管理委員会
  - 1) 特になし。

IV. 議題

- 1 平成28年度臨時会員総会の日程について  
標記の件について、矢作事務局長より発言があった。これを受け理事会審議の結果、平成29年3月16日(木)を予定とすることで、出席理事全会一致で承認した。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

# 求人案内

- 埼玉県衛生研究所  
採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：0493-59-9284  
企画・産学連携担当 斎藤・河合
  - 医療法人協さいたま生活協同組合  
かすかべ生協診療所  
採用条件：正職員 臨時職員（パート）  
連絡先：048-752-6143  
事務長 伊藤智子
  - 一般社団法人 巨樹の会 新久喜総合病院  
採用条件：正職員  
連絡先：0480-26-0033  
総務課・小林洋一
  - 医療法人五隣会 まちだ訪問クリニック  
採用条件：臨時職員（パート）  
連絡先：048-424-7301 和田孝司
  - 医療法人財団石心会 埼玉石心会病院  
採用条件：正職員  
連絡先：04-2953-0909 内線2841  
事務部 田村昌子
  - 慶應義塾大学病院  
採用条件：正職員 嘱託職員  
2017年4月1日採用  
連絡先：03-5363-3615  
人事課 松林・伊勢谷・仁平
  - 医療法人社団 愛友会 三郷中央総合病院  
採用条件：正職員  
連絡先：048-953-1321 内線1120  
総務課 野原
  - 株式会社ピーシーエルジャパン  
病理・細胞診センター  
採用条件：正職員 臨時職員（パート）  
連絡先：049-234-7310 人事課 古田島
  - 一医療法人社団協友会  
メディカルトピア草加病院  
採用条件：正職員  
連絡先：048-928-3117  
総務人事課 角（すみ）
  - 一般社団法人 巨樹の会 所沢明生病院  
採用条件：正職員  
連絡先：04-2928-9110  
内線140・141 総務課 三次
  - 医療法人 熊谷総合病院  
採用条件：正職員  
連絡先：048-521-0065 内線2113  
総務課 関口・引間
  - 医療法人 大宮シティクリニック  
採用条件：正職員 臨時職員（パート）  
連絡先：048-645-1256  
本部長 星野
  - 一般社団法人 大宮医師会メディカルセンター  
採用条件：非常勤職員  
連絡先：048-665-6559  
検査課 菊池・廣田
- 給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

# あ と が き 五 輪

この埼臨技だよりが手元に着くころ、オリンピックは終盤（終わってる？）に入っている頃でしょうか!? いくつメダルが取れているのでしょうか？ 個人的には体操男子、水泳陣、バドミントンにメダルを期待していますが、メダルが無くてもラグビーワールドカップ南アフリカ戦のような、熱く心に残る試合も期待している今日（7月27日）この頃です。

オリンピックシンボルの五輪は、5大陸を意味していることは皆さんもご承知とと思います。「では、何色がどの大陸？」と、考えたことありませんか？ ネットで調べると色々な説が書かれています。「色は大陸とは関係なく、背景の白を含めた6色は、多くの国旗に使われている色で相互の結合、連帯を意味している」納得！また、「定かではないが、一般的には青がオセアニア、黄色がアジア、黒がアフリカ、緑がヨーロッパ、赤がアメリカと言われている」など、人種問題に発展しかねない説もありました。

物騒な世界情勢の中、この8月が良い意味で熱くなっていることを期待します。頑張れ、ニッポン！

(猪浦 記)

